1．評価報告概要表

評価確定日　平成20年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600323
法人名	有限会社　ナチュラル・ライフ
事業所名	グループホーム　桜寿
所在地 （電話番号）	磐田市池田391-1 （電　話）0538-39-7530

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年10月17日

【情報提供票より】（19年10月6日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年10月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	17　人	常勤　11　人、非常勤 6　人、常勤換算 11.85　人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての1階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	50,000　円		その他の経費（月額）	13,000　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　150,000　円）		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円
	夕食	600　円	おやつ	200　円
	または1日当たり　1,500　円			

（4）利用者の概要（10月6日現在）

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	1 名		要介護2		5 名
要介護3	5 名		要介護4		5 名
要介護5	1 名		要支援2		0 名
年齢　平均	86.82 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	豊田えいせい病院　酒井歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員の見守りのもとで、利用者一人ひとりのペースを尊重した生活が支援されている。利用者は食事作りや配膳、後片付け、畑や庭仕事、洗濯物たたみや針仕事等、それぞれが役割を持ち、張り合いをもって生活をしている。食事を法人内の基本献立を主にしながら、その日利用者が食べたいメニューを臨機応変に取り入れるなど、食事が楽しみになるように対応している。家族や利用者の要望でターミナルケアに取り組み、利用者と家族の意向に沿って、職員が話し合いを重ね、関係機関と連携を図り対応している。また、消防署の協力を得て、定期的に防災、避難訓練を行うとともに、地域自治会との連携も深まり、地域住民の協力も仰げるような関係となってきた。地域と連携強化を図り、日々の暮らしを大事にし、利用者が自分らしく穏やかに過ごせるよう職員が一丸となって取り組んでいるので、今後にも期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の評価結果を職員で話し合い、必要な改善と更なる取り組みに繋げるように計画的に取り組んできている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 評価の意義を理解し、全ての職員で自己評価に取り組み、個々の課題を共有した。これまでのサービス内容や提供方法等を振り返る機会と位置付け、前向きに取り組んだ。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議を昨年度発足させ、これまでに2回開催した。市職員や地域自治会長等の参加のもとで、利用者の生活の質の向上を図るために、活発な意見交換が行われた。自治会長からもホームと地域住民がさらに交流を深められるような提案もあり、具現化しつつあるが、その後管理者の交代等で行われなかった。訪問調査日現在で、近々開催することにしているので、今後も有意義な会議の開催を期待したい。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族の訪問時や電話等での連絡時には、気軽に何でも言える雰囲気づくりに努め、出された意見は些細な事柄も把握するようにしている。出された意見は検討し、運営に反映させるように心掛けている、また、苦情があった場合には、速やかに検討し、解決できる仕組みを講じている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域に根付くホームづくりに向けて取り組んできた。地域の祭りや運動会にも積極的に参加し、地域中学生の体験学習等の受入れ行う等、日常生活での近隣住民との交流も行われている。地域住民も参画するホーム行事の検討も行われている。運営推進会議に自治会長の参加も得る等、今後更なる取り組みを考えているので、今後の取り組みに期待したい。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳のある　その人らしい　穏やかな生活」をホーム理念に、地域密着型サービス事業所として実践することを確認し、地域との連携強化を運営規定に明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や職員との個別面談の中などで確認し、理念の共有を図っている。ホーム理念を事務所内に掲げ、職員自身も確認を行うと共に、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根付くホームとなるように実践している。地域行事に積極的に参加し、中学生等の体験学習の受入れ等も行い、日常的な交流に繋げられるようにしている。近隣住民と日常で触れ合える関係づくりも深まっている。	○	地域住民に参画を求めたホーム行事も検討しており、それらの取り組みにも期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全ての職員で話し合いを重ねて自己評価をまとめた。評価を定期的に行う必要性についても認識を深めており、今後も定期的に行っていくことにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催した後中断され、新管理者のもとで開催を予定している。運営推進会議を有意義に開催しようとしている。	○	会議は、自治会長や市職員、利用者や家族の参画を予定し、活発な意見交換を行うように予定しているので、定期的な開催と話し合いの内容が運営に反映されるように期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員が定期的に市を訪問し、ホームの運営状況を伝えるとともに相談や検討を行っている。市が行う事業者会議にも参加し、情報交換と連携を深めるようにしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には声掛けし、利用者の暮らしぶりや健康状態などを伝え、あまり訪問できない家族には手紙を定期的に書いて連絡している。利用者と家族の絆を大切に考え、信頼が得られるように連絡を密に行うように考えている。	○	家族には定期的な連絡を心掛けている。家族は何を伝えて欲しいのか、またホームとして何を伝えるべきかを今後も定期的に検討して欲しい。また、ホーム便りの発行についても検討を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への連絡を密に行う中で、何でも気軽に言える雰囲気づくりに努め、意見や要望などの把握に努めている。また、得られた意見等は、検討し、必要に応じて運営に反映するように努めている。苦情のあった場合も速やかに解決できるような仕組みが講じられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職による利用者への弊害を理解し、できる限りそれを起こらないように努力している。異動や離職時には、利用者に影響が及ばないように留意し、変わらない支援を行うようにしている。	○	法人内で複数のホームを運営しているので、移動も止むを得ないが、利用者や家族との馴染みの関係を考慮した検討を期待したい。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新規採用職員研修や経験年数に応じた研修の充実を図っている。また、外部研修にも積極的に受講し、職員の質の向上を図っている。受講した内容は職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市事業者連絡会に参加し、情報交換したり、地域居宅介護支援事業所が行う勉強会に参加し、日常的に連絡できる関係づくりを行っている。	○	地域同業者（介護サービス事業所）と、定期的な交流や研修を行うことは、中々理解を得られないことであるが、連携の強化や職員の質の向上に向け、検討を行って欲しい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みがあった場合には、利用申込者及び家族に訪問（見学）を促し、利用申込者宅への訪問を重ねて、希望や意向を踏まえて、実際の利用に繋げている。体験利用も踏まえ、職員と顔なじみの関係を構築したうえでサービス提供を行うように留意している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内の家事や役割を利用者と職員が協力しながら行うように努め、利用者を敬いながら教えを請うような関係づくりが行われている。お互いに喜び合い、悩みごとや恐れることを理解し、共感するようにしている。		
1．一人ひとりの把握					
14	33	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がホーム内で充実した生活が継続できるように、利用者の生活歴を踏まえて、思いや意向を把握するように努めている。暮らし方を定期的に検討したり、日常生活の言動から思いを把握し、利用者のやりたい事柄をできる限り続けられるように支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	〇チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族からの意向を踏まえ、求められる柔軟なサービス提供が行えるように介護計画を策定している。アセスメントによって得られた事柄も踏まえ、利用者の希望に沿った支援が努められるように、計画の目標や具体的な支援方法等を明確に記している。		
16	37	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月でモニタリングを行い、それらを踏まえ、計画見直しを適切に行っている。利用者の目標達成状況や生活上で意識や気持ちの変化についても考慮した計画見直しとしている。状況に変化のあった場合には、その都度見直すようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム特性と柔軟性を鑑み、利用者のかかりつけ医への受診や墓参りへの送迎等、利用者や家族からの希望や要望等を柔軟に受け止め、それを実現しようと努力している。ホームの多機能性を活かした支援を充実させていきたいと考えている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の殆どが、家族の納得も得てホーム協力医をかかりつけ医としている。ホーム協力医の定期的な受診支援が行われる他、必要に応じた往診も行われている。また、ホーム協力医をかかりつけ医としない利用者にも、受診の支援を行い、その受診結果を確認している。		
19	47	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者及び家族の希望を第一に考え、医師の診断や意見をもとに、介護の範囲や緊急時の対応等を確認したうえで、終末期の支援方針をたて、ターミナルケアに繋げている。（看取り実績2人）		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への羞恥心等への配慮を含んで、プライバシーへの配慮に努めている。また、個人情報の保護については、その認識を深め、適切に行うようにしている。中学校等の体験学習時でも秘密保持のためにサインを得たり、玄関に常備している面会簿も個人毎にファイルし、他の方の面会状況は見られないよう配慮している。		
21	52	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や自己決定を支援することを常々確認し、利用者一人ひとりがどのように過ごしたいのかを大切に考え、一人ひとりのペースに沿った支援を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をホーム内での楽しみごとの一時と考え、調理や盛り付け、配膳、食器洗い等、それぞれ役割が分担され、職員と一緒に行っている。職員も利用者と同じものを同じテーブルで食べながら、食べこぼし等の支援もさりげなく行い、楽しい一時とするように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者がリラックスして、のんびり過ごせるように、利用者の希望に沿って、いつでも入浴できるようにしている。入浴管理表を作成し、一人ひとりの入浴状況が確認できる。	○	入浴回数が少ない利用者が見受けられるので、利用者の意向も尊重しながら、入浴が行われるように支援方法の検討を期待したい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や得意ごとを把握し、やりがいと張り合いをもって、役割や楽しみごとが行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物、病院への受診同行等で積極的に外出支援している。また、利用者の希望により外食への同行も行ったり、車いすを利用する利用者にも以前と変わらないように外出の機会を提供するようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をすることによる利用者への弊害を十分に理解し、一切施錠しない支援を行っている。利用者の自由な行動を支援し、見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施する他にも、運営推進会議で参画を得ている自治会長の提案で、利用者を地域で見守る動きや、災害時に協力が得られるような関係づくりが進んでいる。	○	地域との連携が進められているので、今後も検討を重ねて、あらゆる事態に対応できるように期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を確認し、個別に記録している。法人栄養士のアドバイスを得て、バランスの取れた食事作りに努めている。水分補給についても必要量の摂取を心掛け、自由にいつでも飲めるように準備している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や浴室、トイレも一般家庭と変らない造りで家庭的である。居間や廊下の各所にソファーが置かれ、利用者の好む居場所を確保する等、居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が利用者らしい生活が継続して行えるように、思い出の品や大切にしていたもの、使い慣れた家具や調度品が持ち込まれ、一人ひとりが居心地良く個性ある居室となるように支援している。		